

東京藝術大学
瀬戸内海分校

2022年度香川県・東京藝術大学連携事業

香川県・東京藝術大学 瀬戸内海分校プロジェクト

第1回

Setonaikai Bunkou
Project

海は人を愛する

The ocean loves people

Kagawa x Tokyo University of the Arts 2022

Research & Planning → Workshop → Art

High school + University



展



令和4年

12月16日(金) - 12月25日(日)

9時 - 16時 *初日のみ15時開館 休館日なし 入場無料

三木町池戸公民館 (三木町指定文化財)

Exhibiting Artists: Izumi ITO & Yukari SAKATA & Takashi HOKOI



Miki-cho Ikenobe Kouminkan

主催：香川県、東京藝術大学 特別協力：香川大学 協力：三木町

「さとうらみ」ロゴ画：日比野克彦

出展アーティスト

伊東五津美

Izumi ITO



1988年、千葉県生まれ。2021年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。2022年より同大学、絵画科
油画教育研究助手として勤務。美術作家。

自身の身体をメディアムとして捉え、場所を移動した先での視点や自然に介入した時の感覚をきっかけに、普段の生活との違い
や時間軸の差異をテーマに制作をしている。身体の動きの連続性の中にある形と場所がもつ記憶を可視化すること、作品の生ま
れる余白に意識を向けた制作を目指している。インスタレーション、立体、写真など多様なメディアを横断しながら作品を発表
している。

主な展示に、2018年「桃源郷芸術祭」天心記念五浦美術館/茨城、「ぶらまちアート2018歴史・町広島竹原芸術祭」竹
原町並み保存地区/広島、2019年「瀬戸内国際芸術祭2019秋会期」公益財団法人四国国家博物館「四国村」香川、
2021年「第8回アラカルト」船橋市民ギャラリー/千葉、「芸術の散歩道」上野公園/東京、2022年「天空の芸術祭
2022」(海野希/長野県)「TUSHIKU REDESIGN PROJECT OPENING」(市原牛商商店街/千葉)

伊東五津美「風を描く」/2019年



坂田 ゆかり

Yukari SAKATA



東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。
2014年、アルカサバ・シアター(ハレスチナ)との共同制作「羅生門一載の中」を演出(フェスティバルトキョー14)。2016年、
建築家ホルヘ・マルティン・ガルシアと8名の高校生と共に制作した「Dear Gullivers」瀬戸内国際芸術祭2016「複雑なトポ
グラフィ」展/特別名勝栗林公園は、2018年ロンドンでのアップデートを経て第16回ヴェネチア建築ビエンナーレのスペイ
ニングに参加。同2018年に演出したまちなかパフォーマンス「テラ」フェスティバルトキョー18が、2020年のパンデ
ミックをきっかけとし、日本・タイ・ミャンマー・インドネシア・ベトナムのアーティストによるアジアの遠隔協働プロジェクト
「テラシア」隔離の時代を旅する演劇」に発展。以来、プロジェクトの企画・運営における中心的な役割を担う。2022年、
International Theatre Institute (ITI/UNESCO) World Theatre Dayに、日本代表のエマージング・アーティストに選出
された。
<https://yukarisakata.com/>



坂田ゆかり演出「テラ 京都編」/2021年
写真：北川啓太

鉾井 喬

Takashi HOKOI



1984年神奈川県生まれ。2010年東京藝術大学大学院美術研究科修了。2016年から同大学デザイン科立体工房非常勤
講師。学生時代島人間コンテストに参加しパイロットとして空を飛び、わずかな風に翻弄された経験から風を可視化する作品を
作り始める。一方で2010年NHKにカメラマンとして就職し福島局配属となり、東日本大震災の際は仙台平野を襲う津波を
ヘリコプターから空撮中継。福島県内にて津波被害、原発事故の取材を続ける。これらの経験からエネルギーと自然の関係性を
問うことを、風をメタファーに様々な視点から試みている。自然と人間社会を二分するのではなく、双方を行き来しながら多面的な価値観を持ち得
た、動的な問いかけを試みている。2016年映画「福島核紀行」発表、かがわ・山なみ芸術祭(香川県)、2018年6甲ミーツ
アート(兵庫県)、2020年Vernont Studio Center Artist in Residence (USA)、SIM Artist in Residence Program (iceland)、
2021年野村財団芸術文化助成、HIBIYA BOSSOM 2021(東京ミッドタウン日比谷)、中之条ビエンナーレ(群馬県)など。
国内外のアーティストインレジデンスに参加、リサーチベースのサイトスペシフィックな作品を発表している。



鉾井 喬 「Invisible Cooperation」/2021年

さととうみ

里から海を想う時がある。海から里を想う時がある。

ここではないむこうのことを想像する。

そんな癖がアーティストにはある。

見えない物を想像する癖。見えていないから想像したくなる。

見えていないから想像することができる。

そんな人たちが互いに互いのことを、

私ではない見えない他者のことをイメージすれば

きっと世界は変わっていくのだろう。

東京藝術大学長 日比野 克彦

香川県・東京藝術大学 瀬戸内海分校
プロジェクトでは、東京藝術大学の学生や
出身作家から出展アーティストを選抜し、
瀬戸内海の海洋環境を想い「海は人を愛する」を
メインテーマに、毎年サブテーマ
(歴史、文化、環境など)を設定して
リサーチを行い、ワークショップや専門家による
講義などから学びを得ながら美術展の
企画・開催をします。

人材育成を目的として香川県内の高校生が
出展アーティストとともに瀬戸内海についての
リサーチ(調査・フィールドワーク)を行い、
さまざまな視点から問題提起を行い、企画立案、
作品制作や展示など展覧会開催に至るまでの
一連の流れをアーティストやスタッフから
実践をととして学びます。

2022年度は三木町池戸公民館を展示会場とし、

里と海の間をサブテーマとする

「さととうみ」展を開催します。

「里から海へ海から里へ」

思いをめぐらせます。



三木町池戸公民館(三木町指定文化財)

香川県・東京藝術大学連携事業とは

香川県と東京藝術大学は連携して、文化芸術に親しむ機会を県民の皆様様に提供するとともに、
地域の活性化につなげ、若手芸術家の育成支援などをおとして、2010年度から現代美術の
芸術家の制作活動に触れるアートプロジェクトを県内で展開しています。

主催：香川県、東京藝術大学 特別協力：香川大学 協力：三木町

総合監修：東京藝術大学学長 日比野 克彦 事業代表者：東京藝術大学美術学部長 光井 涉

企画・運営・講師：東京藝術大学美術学部教授 橋本 和幸

香川大学 創造工学部 講師 柴田 悠基

特別講師：香川大学 創造工学部 学部長 末永 慶寛



<https://www.tua-kagawa.com/>

三木町池戸公民館
(三木町指定文化財)

〒761-0701
香川県木田郡三木町池戸2340-1

【電車】
琴電長尾線「池戸駅」
徒歩3分



このプロジェクトで香川県と東京藝術大学
は次のSDGsの取り組みに貢献し、地域の大学と連携して開催します。

- 4 質の高い教育をみんなに
 - 14 海の豊かさを守ろう
- 次の取り組みを促進することも目指します。
- 11 住み続けられるまちづくりを
 - 15 陸の豊かさを守ろう
 - 17 パートナーシップで目標を達成しよう
- また、香川大学SDGs加速推進経費を使用しています。

【お問い合わせ】香川県政策部文化芸術局文化振興課
Tel: 087-832-3785 (FAX: 087-806-0238)

